

「鶴ではなくて サギだった」

落語です。おじいさんが道を歩いていて一人の娘さんが道で倒れています。「これは大変なケガじゃ。すぐに私の家に」と、おじいさんは手当をします。数日後には元気になり「おじいさん有難うございました。お願いが一つあります。隣の部屋を貸してください」 「何をするのでですか」「いえ申し上げられません。おじいさん、決して私のしていることを覗いてはいけません」「よし、わかった」

部屋に入った娘さんは、さっそく行動します。「ギギー」「バターン」「ギー」三、四日してその音がやみました。おじいさんはこっそり部屋を覗きました。なんと家財が全部運び出されなくなっていました。

驚いたおじいさんがひと言。「鶴ではなくて、サギだった」
今日の世相そのものです。受けたご恩は、水に流し、かけた情は石に刻め……悲しい時代です。

